

# 来年もよろしく!



バレエ『くるみ割り人形』（チャイコフスキー作曲）の1場面

## 図書館だより

2021年  
12月号

### 新着図書情報

☆リクエストに  
おこたえして

『ベンジャミン・バトン』  
フィツジェラルド  
角川文庫

『バーナムの骨』フアン  
光村教育図書  
『ニンジンでトロイア戦争に  
勝つ方法 世界を変えた20の  
野菜の歴史（上・下）』  
ラップ 原書房



『DIYの楽しみ方 始め方  
から築古再生まで』赤尾宣幸

セルバ出版

『連続殺人鬼カエル男』

『連続殺人鬼カエル男ふたたび』

中山七里 宝島社文庫

『No.1図鑑 昆虫』大谷智通

文響社

『ベンジャミン・バトン』

フィツジェラルド 角川文庫

『月夜の島渡り』恒川光太郎

角川ホラー文庫

『流浪の月』風長ゆう

東京創元社

『強者の流儀』朝倉未来

KADOKWA

★ファンタジーが好きな人に

『山亭ミアキス』古内一絵

KADOKWA

『神様の御用人④』浅葉なつ

『神様の御用人⑤』浅葉なつ

メディアワークス文庫

『Kの昇天 或はKの溺死』

梶井基次郎 立東舎

『騎士の掟 騎士トマス・レミュ

エル・ホーク最期の手紙』

ホーク パンローリング

『コンビニたそがれ堂 空の  
童話』村山早紀

ポプラ文庫ビューアフル

気高く勇敢な騎士

ガウエインはワナに

かけられ、無実の罪

で告発されます。

助かるためには、

「すべての女が最も

望んでいることは何

か」という謎に答え

### 図書館のお薦め本

『五月の鷹』アン・ローレンス

サウザンブックス社

なければなりません。

追いつめられたガウエインの

前にみにくい老婆が現れ、答を

教えてやると言います。しかし

そのためには彼女と結婚しなけ

ればなりません。「美女と野獣」

のおとぎ話を、男女逆転させた

ファンタジーです。

『モンテレッジオ』小さな村の  
旅する本屋の物語』内田洋子

文春文庫

『ハムネット』オフアーレル

新潮社

☆ほのぼのする話が好きの人に

『月曜日の抹茶カフェ』

青山美智子 宝島社

『炉辺荘のアン』モンゴメリ

文春文庫

『サード・キッチン』白尾悠

河出書房新社

★歴史に興味がある人に

『一冊でわかるイタリヤ史』

北原敦 河出書房新社

『一冊でわかるドイツ史』

関真興 河出書房新社

『一冊でわかるアメリカ史』

関真興 河出書房新社

『一冊でわかるインド史』  
水島司 河出書房新社

☆ミステリが好きの人に

『謎のクイン氏』クリステイ

『チーム・バチスタの栄光』

海堂尊 宝島社文庫

『湯どうぶつ牡丹雪』長兵衛天帳』

山本一力 KADOKWA

★自然科学に興味がある人に

『すばらしい人体 あなたの体  
をめぐる知的冒険』山本健人

ダイヤモンド社

『はぐれイワシの打ち明け話』

海の生き物たちのタイプで

クリエイティブな生態』

フランソワ 光文社

『最強脳』『スマホ脳』ハンセン先生の

特別授業』ハンセン 新潮新書

☆郷土資料

『野謎解きめぐり 大地がつくりだした聖地』後誠介 はる書房  
 『牛鬼の滝』宇江敏勝 新宿書房

『黄金色の夜』宇江敏勝 新宿書房

★その他

『ものがたり日本音楽史』

徳丸吉彦 岩波ジュニア新書

『希望の一滴 中村哲、アフガン最期の言葉』中村哲

西日本新聞社

『アウシュヴィッツ生還者からあなたへ 14歳、私は生きる道を選んだ』

リリアナ・セグレ

岩波ブックレット



クリスマスに読むお薦め本(新着図書)

『混沌の王』ポール・アールテ

行舟文化

名門マンズフィールド家には、クリスマスがくると「混沌の王」と呼ばれる怪人が現れて、家族の一人を殺すという伝説がありました。三年前にも密室の中で主の息子が殺されるという事件がありました。そしてまたや恐ろしい事件が起きます。

『くるみ割り人形』熊川哲也

303 BOOKS

名作バレエ『くるみ割り人形』を元にしたファンタジーです。

物語をもっと楽しみたい人には、『バレエ物語集』(マコックラン、偕成社)と『バレエものがたり』(ジエラス、岩波少年文庫)もお薦めです。

『サンタクロースのしろいねこ』ステイントン

徳間書店

サンタクロースのペット、雪のように白いねこのスノウは、クリスマススイプにサンタさんとはぐれてしまいます。

『クリスマスのこねこたち』ステイントン

徳間書店

スノウの三匹の子どもの一匹、白いパールはクリスマススイプに冒険をします。

『クリスマスの幽霊』ウエストル

徳間書店

クリスマススイプ、父親の勤め先の工場に行った少年は、エレベーターで幽霊を見てしまいます。実はこの工場には「オットー」という老人の幽霊がいて、「だれかがオットーを見ると事故が起こって人が死ぬ」といわれています。

『カフェかもめ亭』村山早紀

ポプラ文庫ピニアフル

「カフェかもめ亭」にやってくるお客さんたちが語る不思議な話を集めた短編集です。最後のお話は「番外編・クリスマスの国」。

クリスマスに読むお薦め本(新着図書以外の本)

『13番目の贈りものほんとうにあったクリスマスの奇跡』スミス 東洋出版

『クリスマスのぶたぶた』矢崎存美 徳間文庫

『とびきりすてきなクリスマス』キングマン 岩波少年文庫

『クリスマスとよばれた男の子』マット・ヘイグ 西村書店

『クリスマスとよばれた女の子』マット・ヘイグ 西村書店

『クリスマスをとりのとせ』マット・ヘイグ 西村書店

図書館のお進め本

『おぼちゃんたちのいるところ』

松田青子 中公文庫

アメリカの「世界幻想文学大賞」は、「三大SF文学賞」のひとつといわれています。二〇〇六年に村上春樹氏が『海辺のカフカ』で長編部門を受賞しました。今年、短編部門をこの『おぼちゃんたちのいるところ』の英訳本が受賞しました。

この小説に登場する女性たちはなんと幽霊！ 幽霊というと恨みをのんで亡くなり、「うらめしや〜」と現れるイメージがありますが、この小説の幽霊たちはそんな幽霊ではありません！ 苦勞のあげく自殺したり、逆恨みで殺されたり、生前は不幸だった女性たちも、今はそれなりに幸せにいらしているようで、生きている人々を困らせたり助けたりしてくれます。

幽霊と会う人々も、「幽霊だ！」とおびえたりしません。

なにしてんの、おぼちゃん、化けて出るんやったら、化けて出るんやったら、自分の息子のとこ行ってあげえや。なんでうちなんかのとこ来てんねん！(19頁)

幽霊と生きている現代人のドラマをお楽しみください。